# 令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

# 成果共有会 発表資料

# 活動団体の本事業への関わり

今年度より"環境整備"に取組む	
昨年度から引き続き"環境整備"に取組む	<b>✓</b>

活動団体名:NPO法人大月地域資源活用協議会

活動地域 : 高知県大月町

活動におけるテーマ

『複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人を増やす』

# 活動団体および活動地域の紹介

# 活動地域の紹介

- ・養殖漁業、農業が盛んな地域
- ・海岸部を中心に足摺宇和海国立公園に指定されていて、釣りやダイビングなどマリンアクティビティが盛ん
- ・伝統産業である土佐備長炭の生産を行っています

R5年度、農林水産省などが選定する「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」で、グランプリに次ぐ優秀賞と特別賞に選ばれる。炭の原料となるウバメガシの植樹などで、持続的な生産に尽力していることなどが評価されました。



## 活動団体の紹介

NPO法人大月地域資源活用協議会では、大月町で「当たり前のもの」として見過ごされてきた地域の宝を探し、その恵みを次世代へ渡すために色々な取り組みを支えています。

Ex)カヤック、観光ガイド、へんろ古道の 流活用、自伐型林業etc…

# ぼちぼち山業プロジェクト 運営チーム

・元大月町地域おこし協力隊

・生物多様性の保全・ 気候変動(海の温暖 化)に関する専門家



・備長炭生産組合事務局長

·町会議員

·山師(自伐型林業)







# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

# 大月町における林業の現状

材価が安い

なり手が増えない

放置人工林が増える

豪雨時に斜面が崩壊 しやすい

土砂崩れなど住民生 活に支障がでる

土砂の流出は養殖な ど漁業に影響が出る

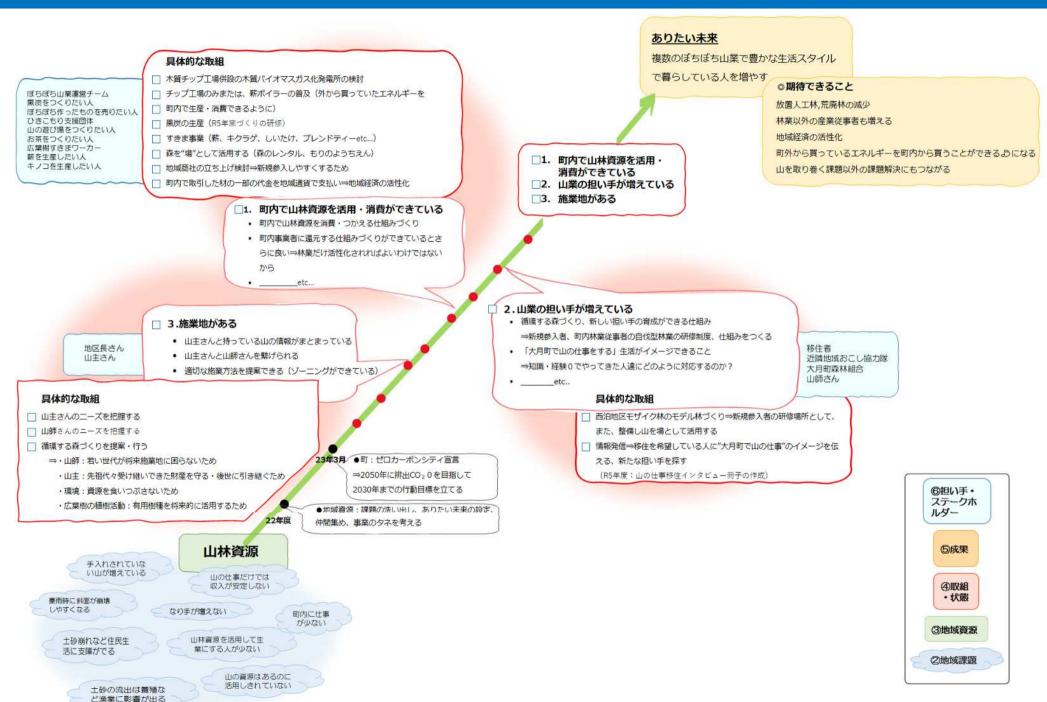
- ・放置人工林は主に森林組合が間伐を実施
- ・優良材は宿毛の木材市場に出荷
- ・C材はパルプ用材または宿毛の木質バイオマス発電所へ(材価が安いく売り先が遠いため経費がかさむ)

泥水が海に流れると

- ・目の色が白くなり商品価値が下がる
- ・塩分濃度が下がるため身が割れ商品価値が下がる。
- ここ数十年で海の状態は悪いほうへ変化している

# 課題は負のスパイラル状態

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



# 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		◆キックオフ	ミーティング			◆中間共有会	X			◆ステ	
•		電訊	や直接訪ねる			町内個人・	役場担当者・		団体etc…		
						•	◆SNSの開設 更新				<b></b>
			◆移住	山業者インタ	ビュー						
		 	•					-			
					木红					提案	
				•			月				<b>——</b>
					 		1	キクラ	ゲの試験栽培	専門家	
	◆広葉樹 ・ <b>広葉樹</b>		◆ 本 * * * * * * * * * * * * * * * * * *	◆キックオフミーティング         電話や直接訪ねる         ◆移住         ※         ★広葉樹すきま事業         キクラゲの試験栽培         ◆広葉樹すきま事業	◆キックオフミーティング 電話や直接訪ねる・会を開く  ◆移住山業者インタ  ・	◆キックオフミーティング 電話や直接訪ねる・会を開く・立ち話など、 ◆移住山業者インタビュー  ◆木質バイオマ  先進地視察、大月町で実  木質  ※づくり研修@室戸  ※つくり研  ◆広葉樹すきま事業 キクラゲの試験栽培	◆ キックオフミーティング	◆キックオフミーティング  ◆中間共有会  ◆地域のビジョンを広める、意見を聞く 電話や直接訪ねる・会を開く、立ち話など、町内個人・役場担当者・ ◆SNSの開設 更新  ◆移住山業者インタビュー  ◆本質バイオマスガス化発電 先進地視察、大月町で実現可能性について調査  ◆脱炭素委員会へ 木電バイオマスなど町内の森が  ◆黒炭 窯づくり研修・建設@大月  ◆広葉樹すきま事業 キクラゲの試験栽培  ◆広葉樹すきま事業	◆井ックオフミーティング       ◆中間共有会         ●地域のビジョンを広める、意見を聞く       ・企業・非営利         ◆SNSの開設       ●事新         ◆移住山業者インタビュー       ・移住フェアヤ         ・木質バイオマスガス化発電       ・大月町で実現可能性について調査         ・株選が素委員会への参加(計3本事パイオマスなど町内の森林資源を活用       ・無成業のくり研修・建設@大月         ◆広葉樹すきま事業       ・カララ         ◆広葉樹すきま事業       ・カララ	◆キックオフミーティング         ◆地域のビジョンを広める、意見を聞く           電話や直接訪ねる・会を開く・立ち話など、町内個人・役場担当者・企業・非営利団体etc・・・・           ◆SNSの開設・更新           ・参格住山業者インタビュー           ・移住山業者インタビュー           ・移住フェアや森林組合参加           ・大角町で実現可能性について調査           ・施成業委員会への参加(計3回)           ・本部バイオマスなど町内の森林資源を活用できるように           ・無成 案づくり研修・建設@大月           ・広葉樹すきま事業 キクラゲの試験栽培 指導・駒うち           ・広葉樹すきま事業           ・広葉樹すきま事業           ・広葉樹すきま事業	◆キックオフミーティング       ◆中間共有会       ◆ステミーデ         電話や直接訪ねる・会を開く 立ち話など 町内個人・役場担当者・企業・非営利団体etc…       ◆移住山業者インタビュー 野保 フェアや森林組合参加のイベントが         ◆本質バイオマスガス化発電 先進地視察・大月町で実現可能性について調査       ◆成炭素委員会への参加 (計3回) 本備バイオマスなど町内の森林貞源を活用できるように提案         ・工業樹すきま事業 キクラゲの試験栽培専門家 指導・刷うち       ◆瓜菜樹すきま事業 キクラゲの試験栽培専門家 指導・刷うち         ◆広菜樹すきま事業       キム菜樹すきま事業         ・広菜樹すきま事業       ・本本菜樹すきま事業         ・本本菜樹すきま事業       ・本本菜樹すきま事業         ・本本菜樹すきま事業       ・本本菜樹すきま事業         ・本本菜樹すきま事業       ・本本菜樹すきま事業

# 今年度チャレンジした主な取組内容

## 取組①「仲間を探す」

## 【活動内容】

- ・活動についての説明をする
- ・状況を聞きに行く
- ・移住山業の紹介パンフレットを制作する

## 【成果や気づき】

- ・我々が描いたありたい未来「複数のぼちぼち 山業で豊かな生活スタイルで暮らしている人 を増やす」や大月の山を取り巻く課題について 概ね理解はされていて、課題意識を持っている。 ただ、お金にならないから難しい、無理、という諦め の声多数。
- ・共通点がない人は、一度や二度の顔合わせだけでは信用がたらない
- ・関係のない人はいない、どっかしらにつながる (集落活動センター、いちご農家etc…)



yamano-shigoto ijyu guide

Otsuki Kochi

# 今年度チャレンジした主な取組内容

# 取組②「体制を整える」

## 【活動内容】

- ・木質バイオマス発電の検討
- →先進地視察、運営チームそれぞれの立場で行政に提案

## 【成果や気づき】

- ・チームワークを発揮
- ・大月町議会産業建設常任委員会が木質バイオマス発電の導入を検討することを提言
- ・大月町脱炭素委員会が重要施策のひとつに森林吸収源対策、方針として未利用の森林資源をエネルギーとして活用(バイオマスガス化発 電等)を報告書に盛り込む

# 【活動の様子(写真など)】



# 産業建設常任委員会

#### ゼロカーボンシティを目指して

## 木質バイオマスについて調査を開始

大月町も「ゼロカーボンシティ」を宣言し、二酸化炭素排出量を少なくすると同時 に二酸化炭素を吸収する森林を育てることに努めるとしている。大月町の大きなテー マである「人口減少問題」について、産業建設常任委員会から「働き場の創出」を図 るため、「林業従事者の育成に努めるべき」と、様々な支援策を提言したが、これら を実現するためには、町内に核となる材の受入れ先(取引先)が必要であると考える。 産業建設常任委員会では、町が宣言した「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、調 春を開始した。

# 【大分県日杵市】

#### 一なぜ木質バイオマスガス化発電を提案したいのか? -

①健全な里由づくりをすることにより由、川、海の環境を守る。 ②未利用な地域資源の活用によって林葉従事者を育成し、生業を創出する。 ③災害時にも利用できるエネルギー遊を確保する。 ①大月で暮らす人が将来にわたって自然の恵みを受け続けることのできる社会を作る。 これらのゼジョン実現の手段のひとつとして木質バイオマス資源有活用(熱電併給) の可能性を調査する。

③ 公大月町 請金だより

9月議会だより

#### 産業建設常任委員会 結審報告 ゼロカーボンシティ宣言における再生可能エネルギーの活用方法

ゼロカーボンシティとは CO2の練出量を抑えることに努めることと、抑えされないCO2を 吸収する森林を若年齢化することの両立を目指すことを言う。 CO2を吸収する . 45 ・公共施設への太陽光パネル設置 削減・吸収の両立が必要 木質バイオマス発電は… 化石燃料よりもCO2発生量が少ない CO2発生と吸収による ゼロカーボン化の実現 町内山林の若年齢化による環境保全効果 ※若い木はCO2をより多く吸収する

#### 木質バイオマス発電の導入によって、 様々な課題が解決すると思われる。

植林 期化 化学による林装の活性化

発電関連事業での雇用創出 災害時の町独自電力として活用

①地球温暖化対策実行計画を策定する上で、木質パイオマス発電の導入を検討すること。 ②公共施設に係る電気量について、木質パイオマス発電を用いた場合の費用対効果及び、FIT 制度や「クレジット制度等を活用することにおいての合理性を調査すること。 (3)災害等における緊急事態の備えとなるよう、福祉施設等への有効な経読方法について調査す を提言した。

12月議会だより

ゼロカーボン以外の

# 今年度チャレンジした主な取組内容

BOTANICAL THA

## 取組③「事業を考える生み出す」

## 【活動内容】

・事業のタネになるかもしれないものを実験してみる

・R4年度で取り組んだ事業のタネを形にする

## 【成果や気づき】

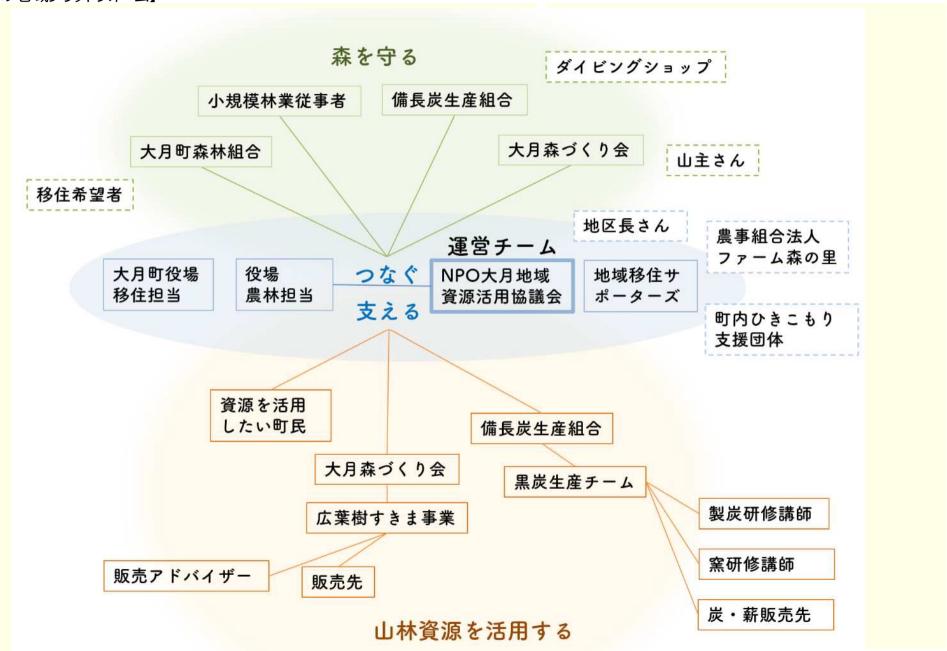
- ・黒炭窯つくり研修
- ・広葉樹のお茶を商品化、販売開始

## 【活動の様子(写真など)】

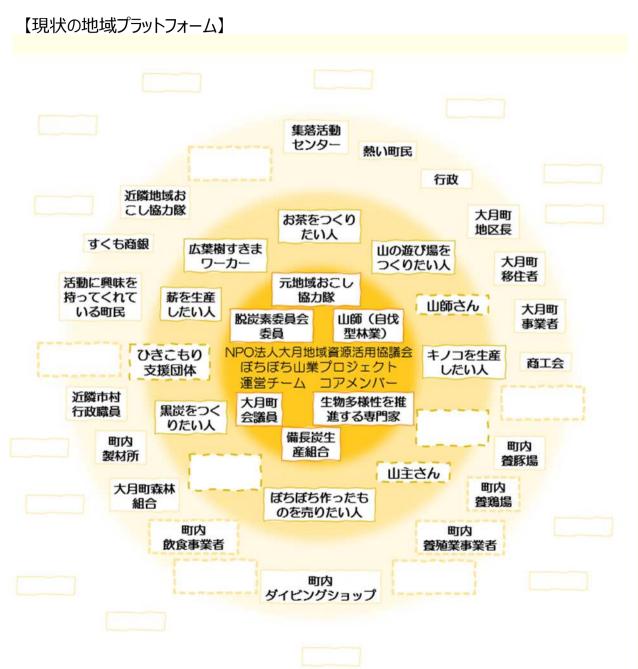


# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【R4年度の地域プラットフォーム】



# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化



【地域プラットフォームの変化】

## R4年度

コアメンバーが各組織の代表者と繋がっていて、 代表者が事業体となり事業の調整を行ったり、 密に連絡を取り情報共有や連携できるところ 探ることができていた

## R5年度

今年度振り返ってみると、コアメンバーが密に情報共有をして連携をしていたことに変化はないが、、、

コアメンバーが町内の人に活動について説明することでゆるくいろいろな人と繋がる体制へ

→今後、こういうことはできないか?という相談 につながるかもしれない

関係なさそうな人にも話してみることで想像できなかった情報や提案をもらえる

関係なさそうな人も興味を持ってくれる人、同じ 思いがある人に出会える

# プラットフォーム形成のポイント

- ・関係者ではない、と思える人も想定外の情報をもらえる
- ・こういう状況なら協力してもらえるかもしれない、という仲間が見つかる
- ・町内のイベントに参加、顔を出すことで 関係者の近況を聞いたりこちらの進捗を 話したり
- ・山師さんと繋がるのは大変

- ·SNSでの発信→仲間が見つかる
- ありたい未来に向けて何をするのかマップをつくる、 チームで共有する

## ◯ 地域のビジョンを描く

- □地域の関係者の話を仲間と共有する
- □ありたい未来と現状との差を把握する
- □地域の構造を可視化・言語化する
- □外部にありたい未来を発信し、反応を得る

互いに関わり

あっており、

- ・運営チームのチームワーク発揮
- ・行政との関係性づくり(ちょっとだけ前進している気がするが、、、、)

# 🧰 仲間を探す

- □地域にどんな関係者がいるかを調べる
- □関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる
- □関係者と定期的に情報共有を行う
- □関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる

П

# 全ての項目は ロプラットフォームの機

- □プラットフォームの機能や取組などの全体像を整理する
- □事務局(マネジメント)機能を設ける
- □自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
- □実務的な役割をプラットフォーム内外で分担する

## 🥒 事業を生み出す

#### ※主に「事業化文援」の 段階で実施する項目

П

- □事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する
- □事業計画の内容を聞き、ともに考える
- □先進的な事業を学ぶ機会をつくる
- □事業の試行を支援する
- П

## 📆 事業を考える

- □地域へのインパクト (効果・影響) を考える
- □すでに地域にある既存の事業を整理する
- □事業の実施主体や支援者を探し、つながる
- □継続的に事業のタネが生まれる"仕組み"をつくる
- ・近況報告をしていると、ぼちぼち山業をしている人からのお困りごとやこんなことがやってみたい、という声が届くようになる
- ・なんでもかんでもぼちぼち山業チームが主体になりがち。もう少し分散させたい。

# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

# 成果

# 【仲間を探す】

- ・地域の人に活動を知ってもらう
- ・海で働く人たちと連携できる部分を探す
- ・山主さんの本音を聞けた
- ・自伐型でやってみても良いかも、という町内の 山師さんと繋がることができた

# 【体制を整える】

・町の施策として、森林資源の活用を提案することができた

# 【事業を考える・生み出す】

- ・同じ気持ちで取り組む仲間が事業の担い手として取り組んでくれている
- ・とりあえず商品化につながった

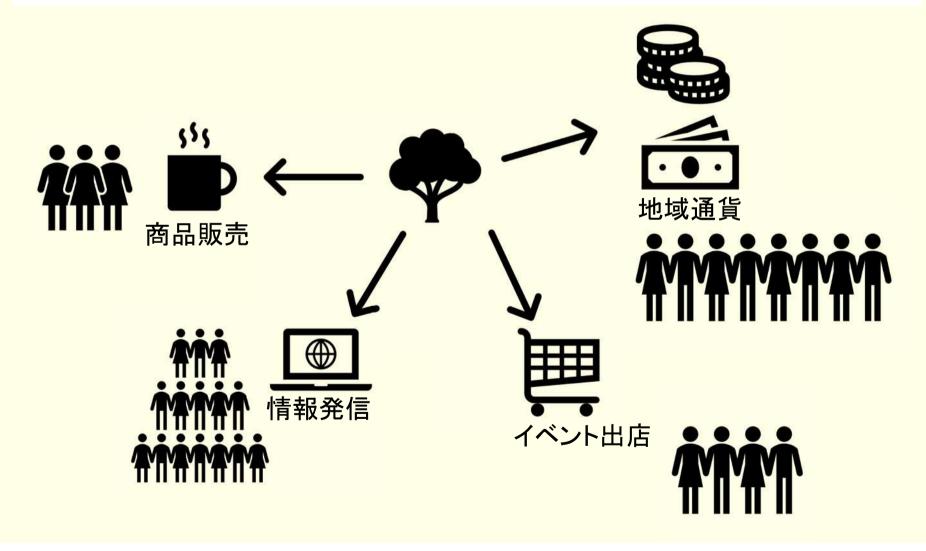
# 課題

- ・行政との関係性を模索中
- ・林業への新規参入者を増やすのは簡単ではない
- ・聞いてまわってみると、作業道をつけて欲しい山主さんはいるが町内に施業できる人は少ない
- ・森林資源の活用について、町に提案することはできたも のの今後どうなるかはまだわからない
- ・一時的な補助金に頼っていると、コアメンバーの強化が難しい。運営チームの健全な経営体制を築く必要がある

# 活動における今後の展望

# ・町内・町外で活動の認知度をあげる

→商品企画・販売をする、情報発信、イベント参加、地域通貨を発行してみるetc,,,



山業を入口に林業周辺の課題だけではなく、町内の他の課題も解決できるようになったら良い